

これから、何が変わっていくのか 未来を担う子ども達に贈るもの…



神戸大学院准教授
北野 幸子 先生

平成25年度から研修全体の指導・助言と、平成27年度の乳幼児教育ビジョンの策定にも携わっていただいた神戸大学院准教授の北野幸子先生に舞鶴市の乳幼児教育に込めた思いを伺いました。

都市部の待機児童問題がクローズアップされていますが、国際学会では「子どもへの教育の保障」という観点から乳幼児教育は量から質の問題に移っています。このままでは子どもは必ず減っていくことが予測され、いかに大切に育てるかという質の議論が必要です。これからは現場と行政、家庭や地域が一体になり、それぞれの地域で子どもの教育と一緒に考えるべきです。

遊びから子どもは多くのことを学んでいます。保育は単なる「子守」ではなく「教育」です。

地域の子どもを生まれてから大人になるまでどう育てるか、「次世代育成」を一貫して考える制度づくりの必要性を考えていました。もちろんそれには多くの時間と労力が必要ですが、舞鶴市と一緒にやろうと決断した理由は、「教育の質を上げたい」という担当者の皆さんの熱心さとやる気でした。そして一番心打たれたのは市長のリーダーシップです。各現場で努力していても、それを包括し具現化する制度をつくり、動かすにはトップの決断力が不可欠です。

研修には公開保育の実施を条件としました。研修を通じて先生方が保育を振り返り、考え、遊びの中の学びや育ちを可視化・言語化し、説明する力量が向上し、保護者に「乳幼児期の教育が伝わりやすくなった」と思います。公私立の保育所・幼稚園の先生方がお忙しい中、何度も研修に参加して本当に頑張ってください。そして保護者の方や子ども達の育ちもどんどん変わっていくのを実感しています。舞鶴市の乳幼児教育が誇れるのは、これらの研修の機会を市内の全ての保育所と

幼稚園に提供していることです。子どもがどの園に行ったとしても、最低基準以上の教育が保障されていくことにつながります。公私園種を越えて、公開保育やドキュメンテーションを中心とした研修を継続していることは素晴らしいことです。舞鶴市の乳幼児教育の質向上を目指した取り組みは、文部科学省のモデル事業に選ばれており、市町村では全国で11か所、京都府内では舞鶴市だけです。そのため自治体や大学等研究機関などによる視察は後を絶ちません(※)。

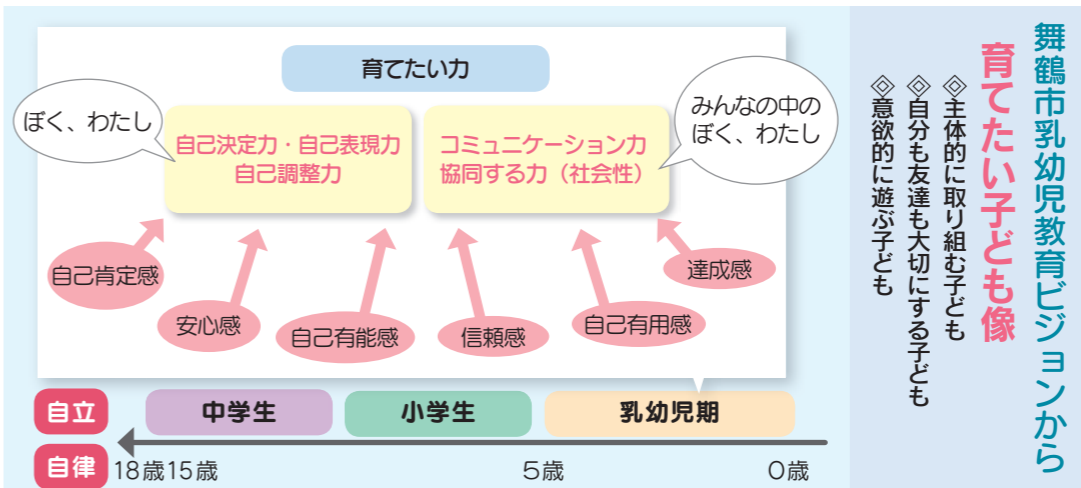
この4年間で、公開保育と可視化のための記録を中心とした研修により、「乳幼児教育の質」の向上が図られました。それを維持していくためには、行政がさらなるイニシアチブを取っていく必要があると思います。今後、舞鶴市の乳幼児教育がさらなるレベルを目指して他市に先駆けたモデルとなることを期待しています。

※平成27・28年度視察

◆自治体関係：福井市、宝塚市ほか7市

◆研究機関：お茶の水女子大、神戸大、玉川大、東洋大など

今後も焼津市や越前市、東京大学院教育学研究科などから視察予定



子どもは、家族のタカラモノです。そして、地域のタカラモノでもあります。

家族だけではできないことを、地域の人や行政がサポートし、支えることが大切です。

舞鶴市では、0歳から就学前までの大切な時期を「乳幼児教育の期間」と捉え、感覚的であった保育を可視化し、語り合うことに取り組み、全ての保育者の専門性を高め、保育の質の向上に努めています。また、子どもを持つお母さんたちが交流する場や悩みを相談する場を提供することで、子育ての環境を整えてきました。

「子どもを中心に考え、地域の子ども達を育てる…」という高い理想を掲げ、舞鶴市の乳幼児教育は大きく舵を切りました。子ども達が遊びを通じて「自分で生きていく、自分で考えて行動していく力」を備えた子どもに育ててほしいという大人たちの強い思いが支えています。

教育者、保育者、地域、行政の枠を越え、「ふるさと舞鶴を愛し、夢に向かって将来を切り拓く子ども」を一緒に育つていきます。

そして「子育てに優しいまち、舞鶴」を市民の皆さんに感じていただき、自然豊かな環境で子どもを育む舞鶴に住んで良かったと言えよう。

子ども達の笑顔とともに歩む時間は素晴らしいもの。

私たちは、子育てに「本気」です。

